

「北陸」「近畿」を筆頭に全地域で悪化～消費が総崩れ、設備投資では明るい兆し

2024年4月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
主任研究員 新田 堯之

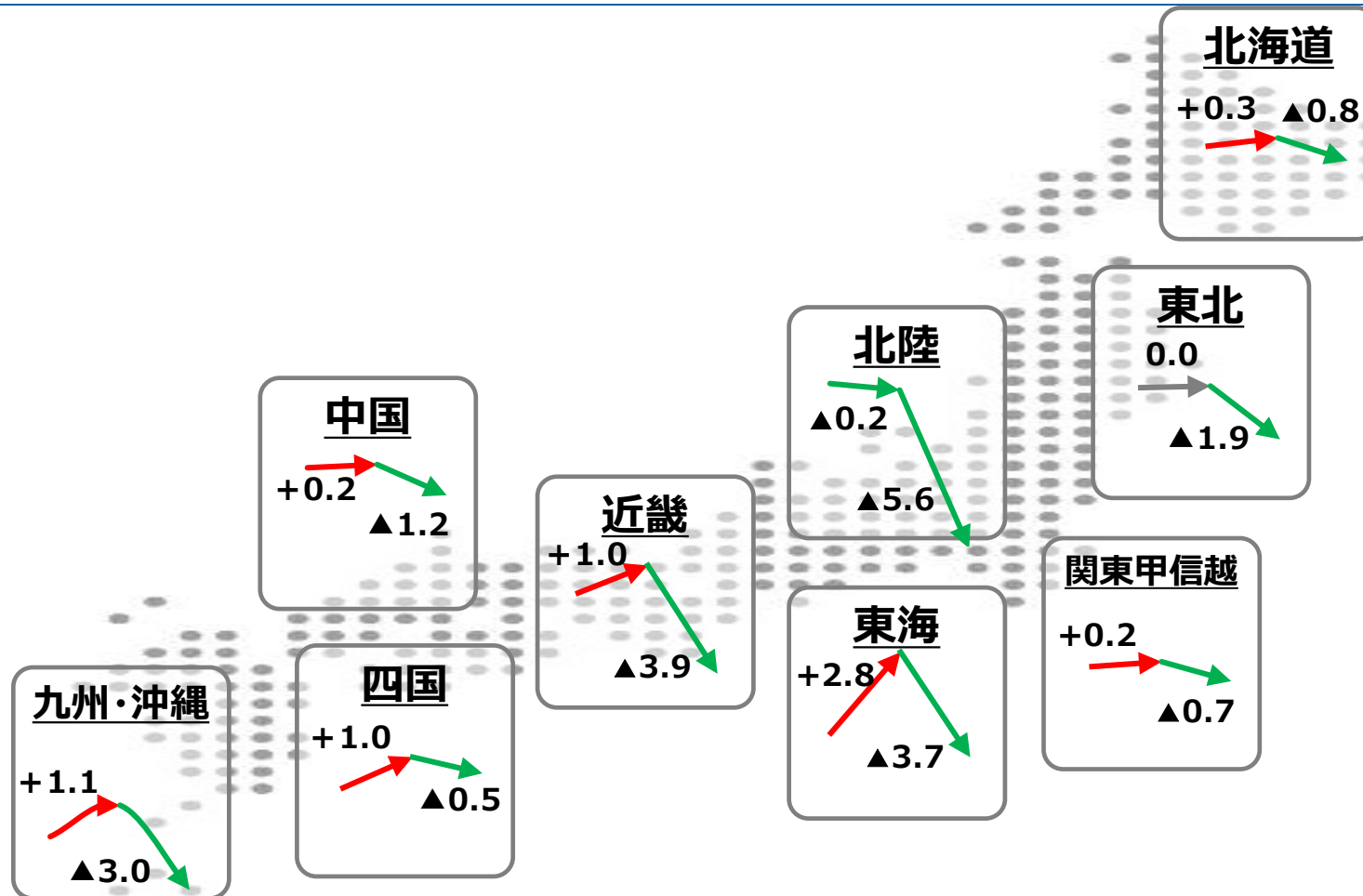
[要約]

- 2024年4月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、令和6年能登半島地震や一部自動車メーカーの生産停止などの影響もあり、「北陸」「近畿」を筆頭に全地域で悪化した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費は「近畿」「北陸」を中心に全地域で悪化した。一部自動車メーカーの生産停止の影響を受けて全国的に乗用車販売が減少している。暖冬などの影響で「近畿」などは家電販売も悪化した。「北陸」は能登半島地震の影響で観光や百貨店等の消費が下押しされた。また、雇用・所得環境は「北陸」で大幅に悪化した。住宅投資は建築コストの上昇等で「九州・沖縄」「中国」などで悪化した。ただし、「北陸」では地震からの復興に向けて先行きの賃貸住宅の需要が見込まれている。企業関連では、設備投資は先行きの半導体需要の増加を見越した「九州・沖縄」をはじめ、5G・EV 関連の生産設備増強といった影響により「四国」「北陸」などで改善した。生産は電子部品・デバイスと化学がプラスに寄与して「北陸」で改善したが、輸送機械の生産が減少して「東海」「近畿」などは悪化した。輸出は北米向けの自動車部品・設備機器に対する需要が好調で「関東甲信越」「中国」で改善したが、「九州・沖縄」では中国向け自動車販売の鈍化といった要因、「東海」では一部取引先メーカーの生産停止の影響等により悪化した。企業マインドは「北陸」「近畿」をはじめ全国的に悪化しており、特に、宿泊・飲食サービス、鉄鋼、自動車などの業種がマイナスに影響した。
- 全国的に見ると、乗用車販売の減少や地震の影響による消費者マインドの落ち込みなどで、幅広い地域において消費や企業マインドが悪化している。しかし、上述の生産停止などの供給制約が緩和してきたこと、春闘で大幅な賃上げが実現するなど雇用・所得環境の改善が期待できることから、基調として景気は改善傾向にある。今後は、家計関連において物価高の影響はあるものの、供給制約の緩和や実質賃金の改善でサービス消費や自動車販売などを中心に消費は緩やかに改善すると考えられる。また、企業関連でもデジタル化・環境対応・省力化に向けた設備投資の改善が期待される。一方、海外景気が後退して、輸出や生産に悪影響を与える可能性がある。地域経済は引き続き、緩やかな回復基調にはあるが、海外リスクを注視する必要があるだろう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクス課が担当している。

※ 本レポートの文章は GPT-4 ベースの ChatGPT が出力した内容を基に研究員が執筆した。

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (23年10月→24年1月、24年1月→4月)



(注1) 各地域の数値は、2023年10月から2024年1月の変化幅と2024年1月から4月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（24年1月→4月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	▲0.8						
東北	▲1.9						
北陸	▲5.6						
関東甲信越	▲0.7						
東海	▲3.7						
近畿	▲3.9						
中国	▲1.2						
四国	▲0.5						
九州・沖縄	▲3.0						

(注) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

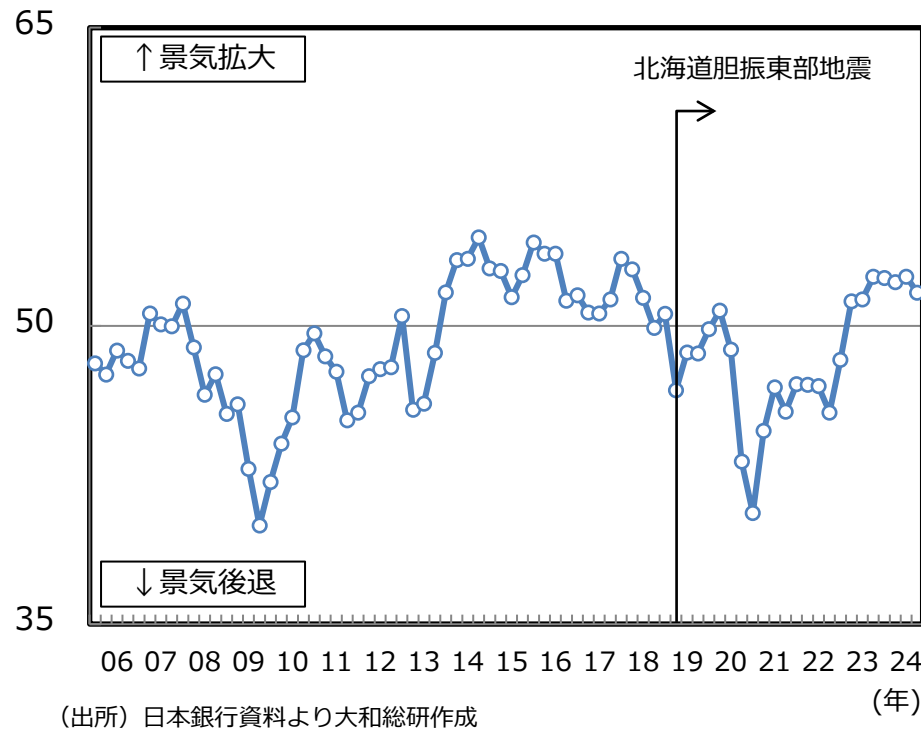
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (24 年 1 月→4 月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:52.5→24 年 4 月:51.7)。設備投資は改善したものの、消費と輸出の悪化がインデックスを押し下げた。
東北	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:50.5→24 年 4 月:48.6)。企業マインド、生産、消費の悪化がインデックスを押し下げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(24 年 1 月:50.6→24 年 4 月:45.0)。生産などが改善したものの、消費や企業マインド、雇用・所得環境の悪化によりインデックスは低下した。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:50.6→24 年 4 月:49.9)。輸出は改善したものの、消費と生産の悪化がインデックスを押し下げた。
東海	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:54.1→24 年 4 月:50.4)。生産、企業マインド、消費、輸出の悪化がインデックスを押し下げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:51.7→24 年 4 月:47.8)。消費と生産が中心となってインデックスを押し下げた。
中国	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:52.6→24 年 4 月:51.4)。輸出などは改善したが、企業マインドが中心となってインデックスを押し下げた。
四国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:51.6→24 年 4 月:51.1)。設備投資は改善したものの、消費の悪化がインデックスを押し下げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:52.9→24 年 4 月:49.9)。設備投資は改善したが、消費と生産が中心となってインデックスを押し下げた。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:52.5→24 年 4 月:51.7)。
- 設備投資は改善したものの、消費と輸出の悪化がインデックスを押し下げた。
- 食料品メーカーなどで省人化投資が進む一方、消費は都市部以外のコンビニエンスストアで息切れ感があり、特に高齢者の売上が減少傾向。自動車の販売受注台数も減少した。

大和地域 AI インデックスの推移



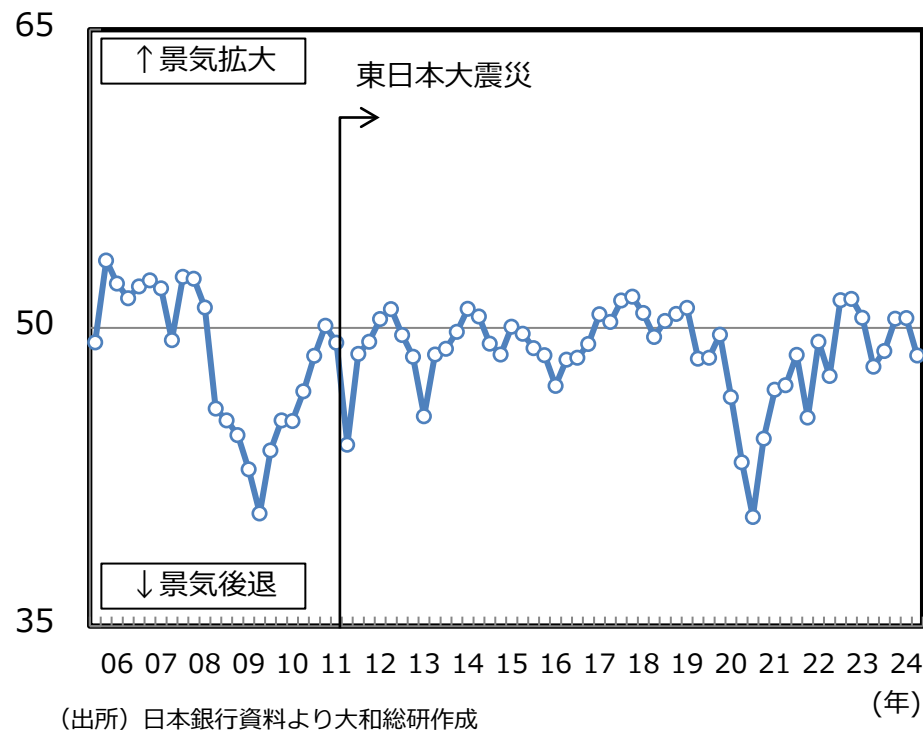
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 1 月	24 年 4 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【個人消費：コンビニエンスストア】	↓
増加している	増勢が鈍化している
【設備投資】	↑
緩やかに持ち直している	持ち直している

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:50.5→24 年 4 月:48.6)。
- 企業マインド、生産、消費の悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドは宿泊・飲食サービスやはん用機械などで低下。消費も暖冬や巣ごもり消費の反動、車両価格の値上げといった要因で、百貨店・家電大型専門店の販売、乗用車新車登録台数が悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



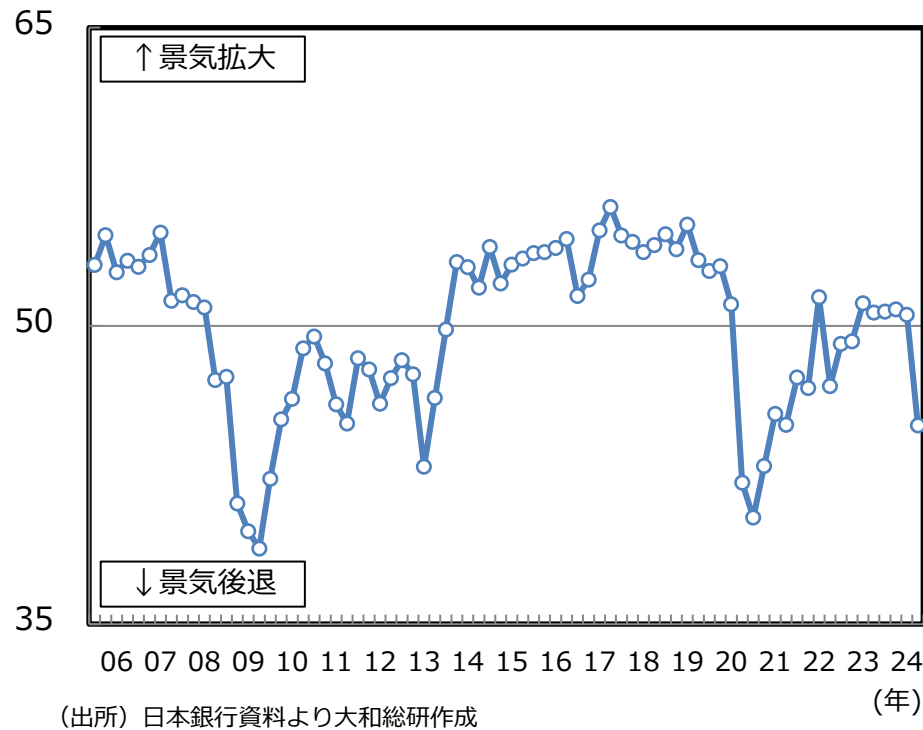
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 1 月	24 年 4 月
【総括判断】	↓
持ち直している	緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↓
改善している	悪化している
【個人消費】	↓
回復している	緩やかに回復している

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(24 年 1 月:50.6→24 年 4 月:45.0)。
- 生産などが改善したものの、消費や企業マインド、雇用・所得環境の悪化によりインデックスは低下した。
- 消費は地震の影響で観光や百貨店等の売上高が下押しされ、企業マインドも宿泊・飲食サービスで特に悪化。ただし、復旧復興関連需要や政府の旅行支援制度により回復に向けた動きも見られる。生産は電子部品・デバイスと化学がプラスに寄与。

大和地域 AI インデックスの推移



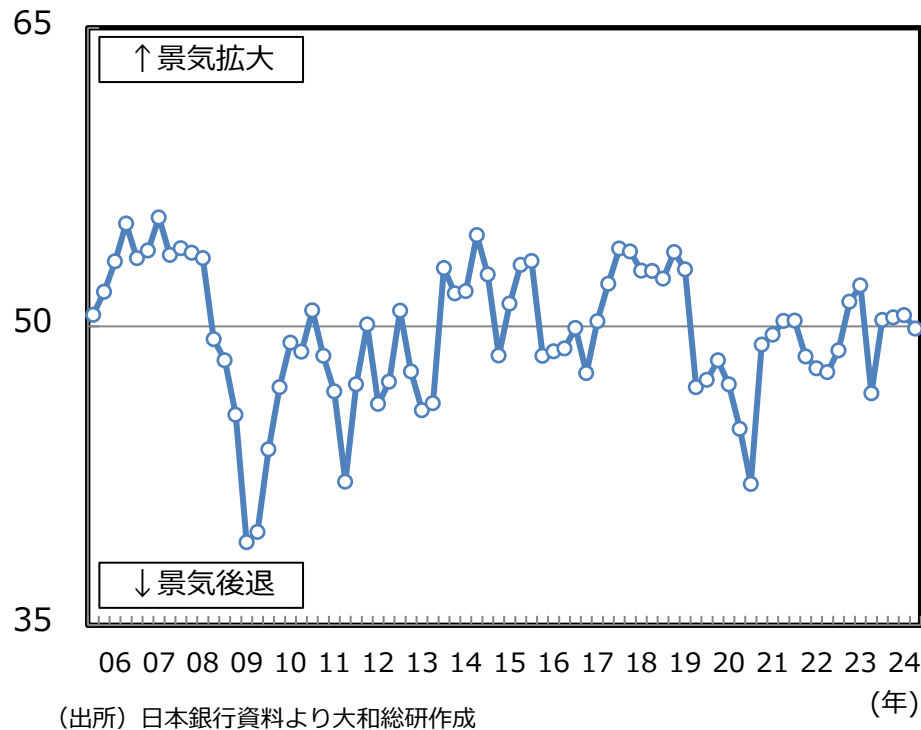
さくらレポートにおける分野別の判断

	24 年 1 月	24 年 4 月
【総括判断】		↓
令和 6 年能登半島地震の影響を注視する必要があるが、緩やかに回復している		能登半島地震の影響により個人消費や生産の一部に下押しがみられており復旧の途上にあるものの、復旧復興需要や生産正常化が進むもとの、持ち直しの動きがみられている
【消費】		↓
物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している		地震により大きく減少した後、復旧復興関連需要に加え、一部に休業を余儀なくされる地域があるものの政府による旅行支援制度の効果等もあって、持ち直しつつある
【雇用・所得環境】		↓
着実に持ち直している		雇用面では地震により一時的な調整が生じているものの、所得については、賃上げ動向等からみると、足もと持ち直しつつある

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:50.6→24 年 4 月:49.9)。
- 輸出は改善したものの、消費と生産の悪化がインデックスを押し下げた。
- 消費では、このところ乗用車新車登録台数が減少している。一方、北米向けのハイブリッド車やディーゼル車の需要好調を受けて、自動車部品の輸出が増加している。

大和地域 AI インデックスの推移



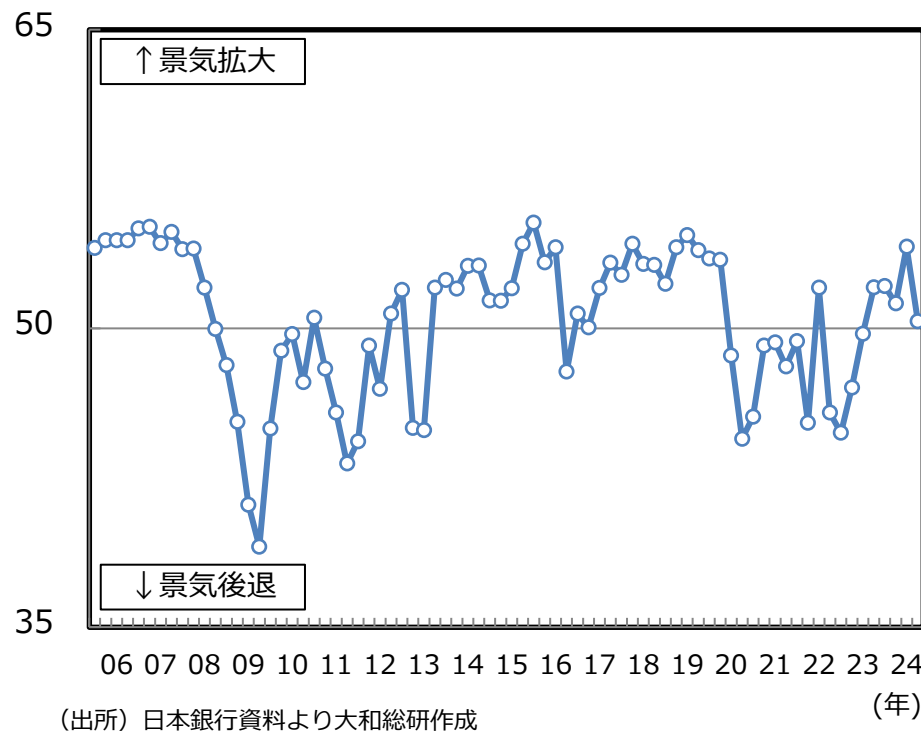
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 1 月	24 年 4 月
【総括判断】	↓
緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【消費】	↓
物価上昇の影響を受けつつも、インバウンド需要などによる押し上げ効果に支えられて、緩やかなペースで着実に増加している	一部に弱めの動きがみられ、増加ペースが幾分鈍化している
【設備投資】	→
緩やかに増加している	緩やかに増加している

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:54.1→24 年 4 月:50.4)。
- 生産、企業マインド、消費、輸出の悪化がインデックスを押し下げた。
- 生産や輸出は、輸送用機械で一部取引先メーカーの生産停止の影響等から一時的に減少。企業マインドは鉄鋼・非鉄金属などで悪化している。また、消費でも乗用車販売が一時的に減少している。

大和地域 AI インデックスの推移



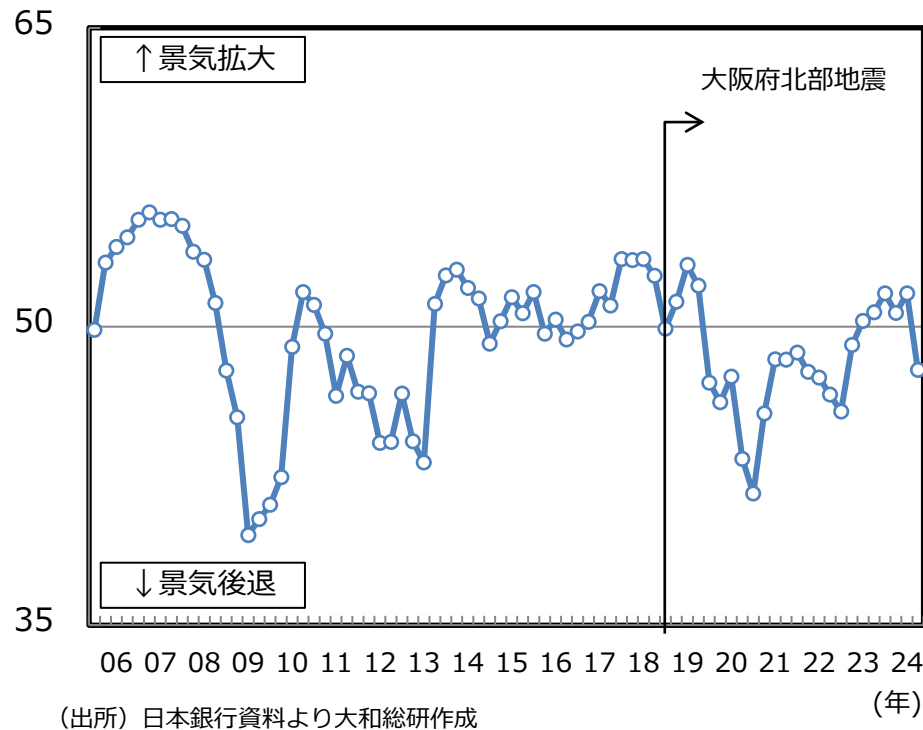
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 1 月	24 年 4 月
【総括判断】	↓
緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【生産】	↓
業種ごとにばらつきがみられるものの、増加基調にある	一時的に下押し圧力を受けているものの、増加基調にある
【輸出】	↓
一部に弱めの動きがみられるものの、増加基調にある	一時的に下押し圧力を受けているものの、増加基調にある

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:51.7→24 年 4 月:47.8)。
- 消費と生産が中心となってインデックスを押し下げた。
- 消費は、暖冬などの影響で家電販売が悪化しており、自動車販売も減少している。生産については、一部自動車メーカーの操業停止の影響もあって減少。企業マインドも鉄鋼、対事業所サービス、輸送用機械などで悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



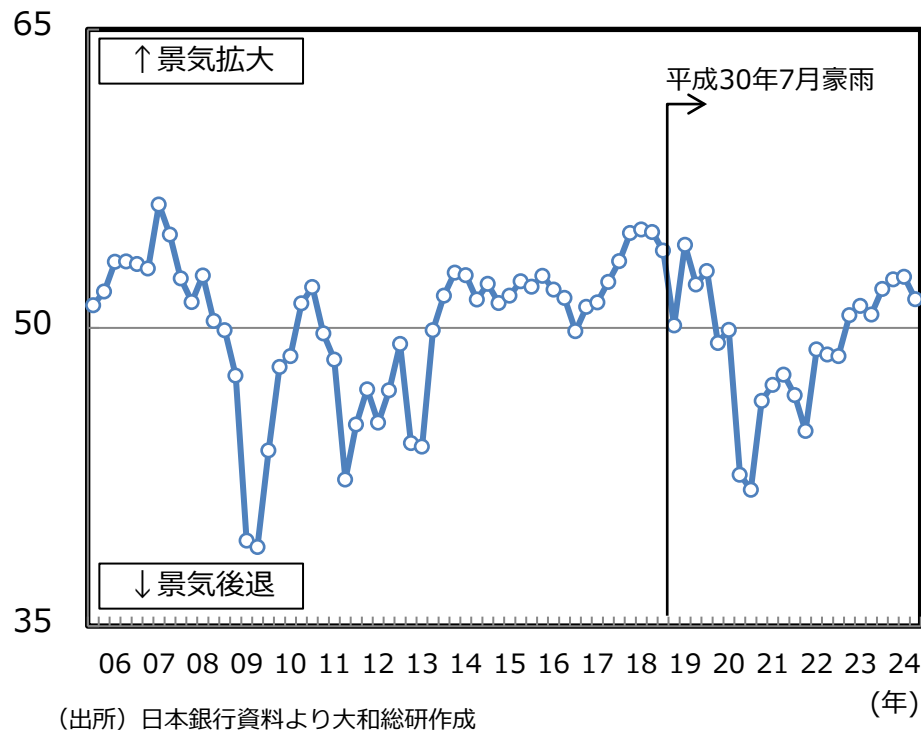
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 1 月	24 年 4 月
【総括判断】	↓
持ち直しのペースが鈍化している	一部に弱めの動きがみられるものの、 基調としては緩やかに持ち直している
【消費】	↓
緩やかに増加している	一部に弱めの動きがみられるもの、 底堅く推移している
【生産】	↓
横ばい圏内で推移している	基調としては横ばい圏内で推移しているが、 足もとでは、一部自動車メーカーの操業停止の影響もあって減少している

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:52.6→24 年 4 月:51.4)。
- 輸出などは改善したが、企業マインドが中心となってインデックスを押し下げた。
- 住宅投資は、建築コスト・借入金利の上昇等の影響で慎重化。企業マインドも自動車や木材・木製品などで悪化した。一方、輸出は、北米向けの自動車生産用の設備機器に対する需要が好調で改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



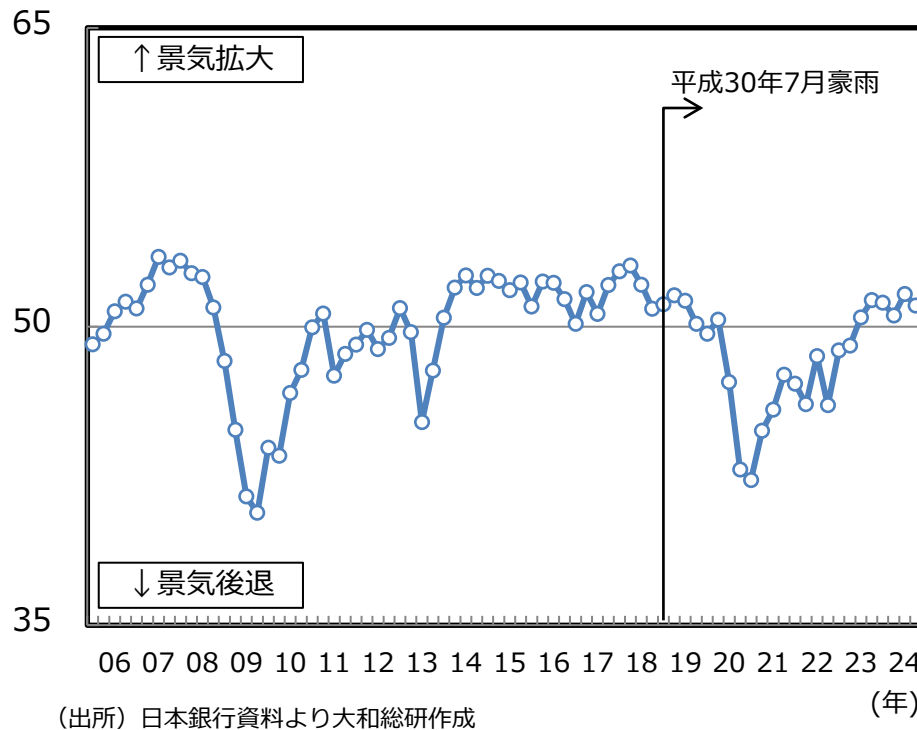
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 1 月	24 年 4 月
【総括判断】	↓
緩やかに回復している	緩やかな回復基調にある
【企業の業況感】	↓
小幅に改善している	幾分悪化している
【住宅投資】	↓
横ばい圏内で推移している	弱めの動きとなっている

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:51.6→24 年 4 月:51.1)。
- 設備投資は改善したものの、消費の悪化がインデックスを押し下げた。
- 設備投資は、5 G・EV 関連の高付加価値製品の生産設備増強といった要因により改善した。一方、消費は、物価高の影響を受けて乗用車販売やコンビニエンスストア売上高において悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



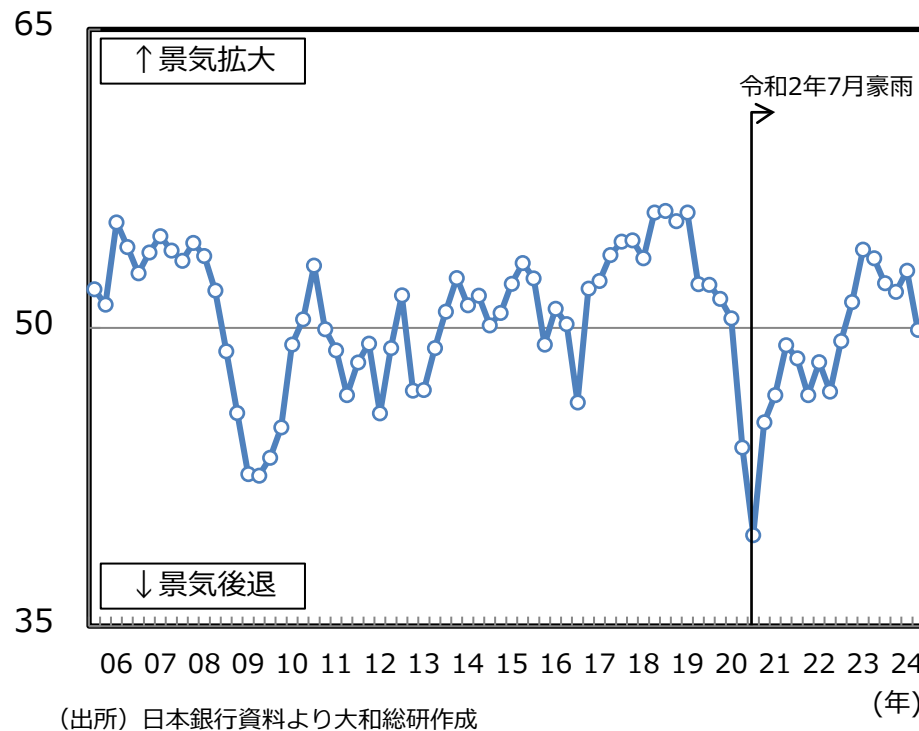
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 1 月	24 年 4 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【消費：乗用車販売】	↓
持ち直している	持ち直しの動きが一服している
【設備投資】	↑
堅調に推移している	増加している

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに下落した(24 年 1 月:52.9→24 年 4 月:49.9)。
- 設備投資は改善したが、消費と生産が中心となってインデックスを押し下げた。
- 消費は乗用車新車登録台数の減少などがマイナスに影響、生産や住宅投資も悪化。輸出は中国向け自動車販売の鈍化等の影響で悪化。一方、設備投資は半導体製造装置部品の製造工場の拡張・新設の動き等で改善した。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 1 月	24 年 4 月
【総括判断】	↓
着実に回復している	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している
【生産】	↓
横ばい圏内の動きとなっている	このところ弱めの動きとなっている
【消費】	↓
物価上昇の影響を受けつつも、回復している	物価上昇などの影響を受けつつも、堅調に推移している

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2024年4月4日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

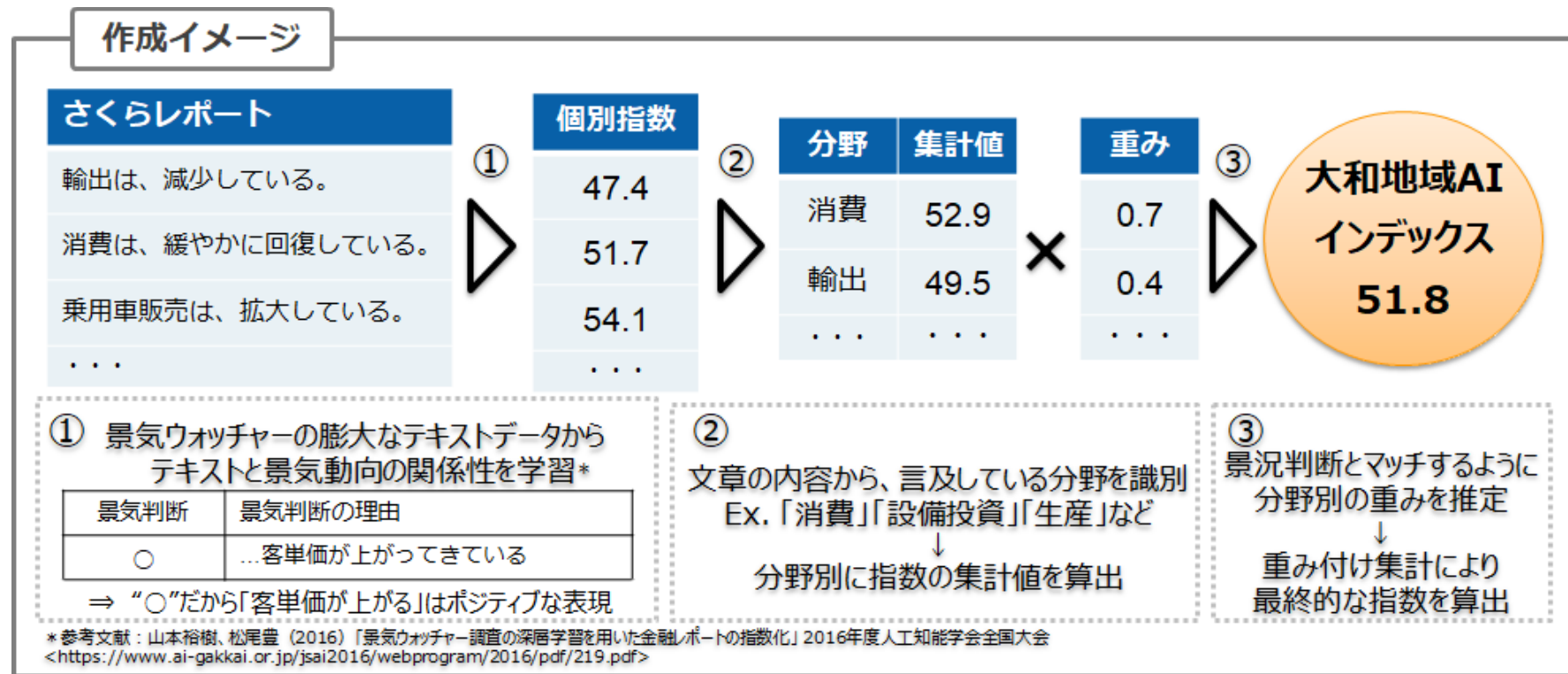
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にもデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成